松下政経塾

THE MATSUSHITA INSTITUTE OF
GOVERNMENT AND MANAGEMENT

2024

松下政経塾とは、松下幸之助が、
理想の社会を実現するために、
リーダーの輩出を目指して設立した公益財団法人です。

1918年、23歳で松下電気器具製作所を創業した松下幸之助。
ものづくりを通じて、人々が豊かに暮らせる社会の実現を目指した。
事業は大きく成長を遂げたが、やがて日本は第二次世界大戦に突入した。

戦後、松下幸之助が目にしたのは、焦土と化した日本と荒廃した人々の心だった。
なぜ人間は、これほどまでに苦しまなければならないのか。
必ずどこかに、人類の繁栄・平和・幸福を実現する道があるはずだ。

1946年、51歳、PHP研究所を設立して、“繁栄による平和と幸福”の研究に着手。
人々が物心ともに豊かになり、平和で幸せに暮らせる社会を追求した。
その思想を広く日本中に訴求しながら、実践活動を展開していく。

しかし、それでも世の中は変わらない。一体、何が足りないのか。
考え抜いた末、「理想の社会を実現するには、国家経営に人を得なければならない」という答えにたどりつく。
1979年、84歳にして、リーダーの輩出を目指して松下政経塾を設立した。

自ら塾長として舵をとり、志をもつ若者たちとともに10年、1989年に永眠。
松下幸之助が描いた理想の社会の実現は、松下政経塾に参集する未来のリーダーたちに託された。

財団法人松下政経塾設立趣意書

わが国は戦後、経済を中心として、目をみはるほどの急速な復興発展をとげてきた。そして、今や一面に世界をリードする立場にまでなってきたのである。

しかしながら、日本の現状は、まだまだ決して理想的な姿に近づきつつあるとは考えられない。経済面においては、円高をはじめ、食糧やエネルギーの長期安定確保の問題など国際的視野をもって解決すべき幾多の難問に直面し、また、社会生活面においては、青少年の非行の増加をはじめ、潤いのある人間関係や生きがいの喪失、思想や道義道徳の混迷など物的繁栄の裏側では、かえって国民の精神は混乱に陥りつつあるのではないかとの指摘もなされている。これらの原因は個々にはいろいろあるが、帰するところ、国家の未来を開く長期的展望にいささか欠けるものがあるのではなかろうか。

そのような正しく明確な基本理念があれば、そこから力強い政治が生まれ、その上に国民の経済活動、社会生活も安心して営むことができ、ひいては国民の平和、幸福、国家の安定、発展ももたらされるのである。従って、今日の国の姿をよりよきものに高め、すすんでは国家百年の安泰をはかっていくためには、国家国民の物心一如の真の繁栄をめざす基本理念を探究していくことが何よりも大切であると考える。

同時に、そのような立派な基本理念が確立されても、それを力強く具現していく為政者をはじめ各界の指導者に人を得なければ、これはなきにひとしいのである。幸いにして、天然資源には恵まれぬわが国ながら、人材資源はまことに質の高い豊かなものがある。まさに人材、とりわけ将来の指導者たりうる逸材の開発と育成こそ、多くの難題を有するわが国にとって、緊急にしてかつ重要な課題であるといえよう。

私たちは、このような観点から、真に国家を愛し、二十一世紀の日本をよくしていこうとする有為の青年を募り、彼らに研修の場を提供し、各種の適切な研修を実施するとともに、必要な調査、研究、啓蒙活動を行う松下政経塾の設立を決意した。この政経塾においては、有為の青年たちが、人間とは何か、天地自然の理とは何か、日本の伝統精神とは何かなど、基本的な命題を考察、研究し、国家の経営理念やビジョンを探求しつつ、実社会生活の体験研修を通じて政治、経済、教育をはじめ、もろもろの社会活動はいかにあるべきかを、幅広く総合的に自得し、強い信念と責任感、力強い実行力、国際的な視野を体得するまで育成したいと考える。

私たちは、この研修によって正しい社会良識と必要な理念、ならびに経営の要諦を体得した青年が、将来、為政者として、あるいは企業経営者など各界の指導者として、日本を背負っていくとき、そこに真の繁栄、平和、幸福への力強い道がひらけてくるとともに、世界各国に対しても、貢献することができるものと確信するものである。

このような松下政経塾が、広く国家国民の期待に十分応え、積極的かつ恒常的に活動していくためにも、公共的機関として運営推進するのが肝要と思う。よってここに、財団法人 松下政経塾の設立を発起する次第である。

昭和54年1月22日

（注）2010（平成22）年7月より松下政経塾は公益財団法人に移行しています。

塾是

真に国家と国民を愛し
新しい人間観に基づく
政治・経営の理念を探求し
人類の繁栄幸福と
世界の平和に貢献しよう

塾訓

素直な心で衆知を集め
自修自得で事の本質を究め
日に新たな生成発展の
道を求めよう

五誓

一、素志貫徹の事

常に志を抱きつつ懸命に為すべきを為すならば、いかなる困難に出会うとも道は必ず開けてくる。成功の要諦は、成功するまで続けるところにある。

一、自主自立の事

他を頼り人をあてにしていては事は進まない。自らの力で、自らの足で歩いてこそ他の共鳴も得られ、知恵も力も集まって良き成果がもたらされる。

一、万事研修の事

見るもの聞くことすべてに学び、一切の体験を研修と受けとめて勤しむところに真の向上がある。心して見れば、万物ことごとく我が師となる。

一、先駆開拓の事

既成にとらわれず、たえず創造開拓していく姿に、日本と世界の未来がある。時代に先がけて進む者こそ、新たな歴史の扉を開くものである。

一、感謝協力の事

いかなる人材が集うとも、和がなければ成果は得られない。常に感謝の心を抱いて互いに協力しあってこそ、信頼が培われ、真の発展も生まれてくる。

松下政経塾 初代塾長

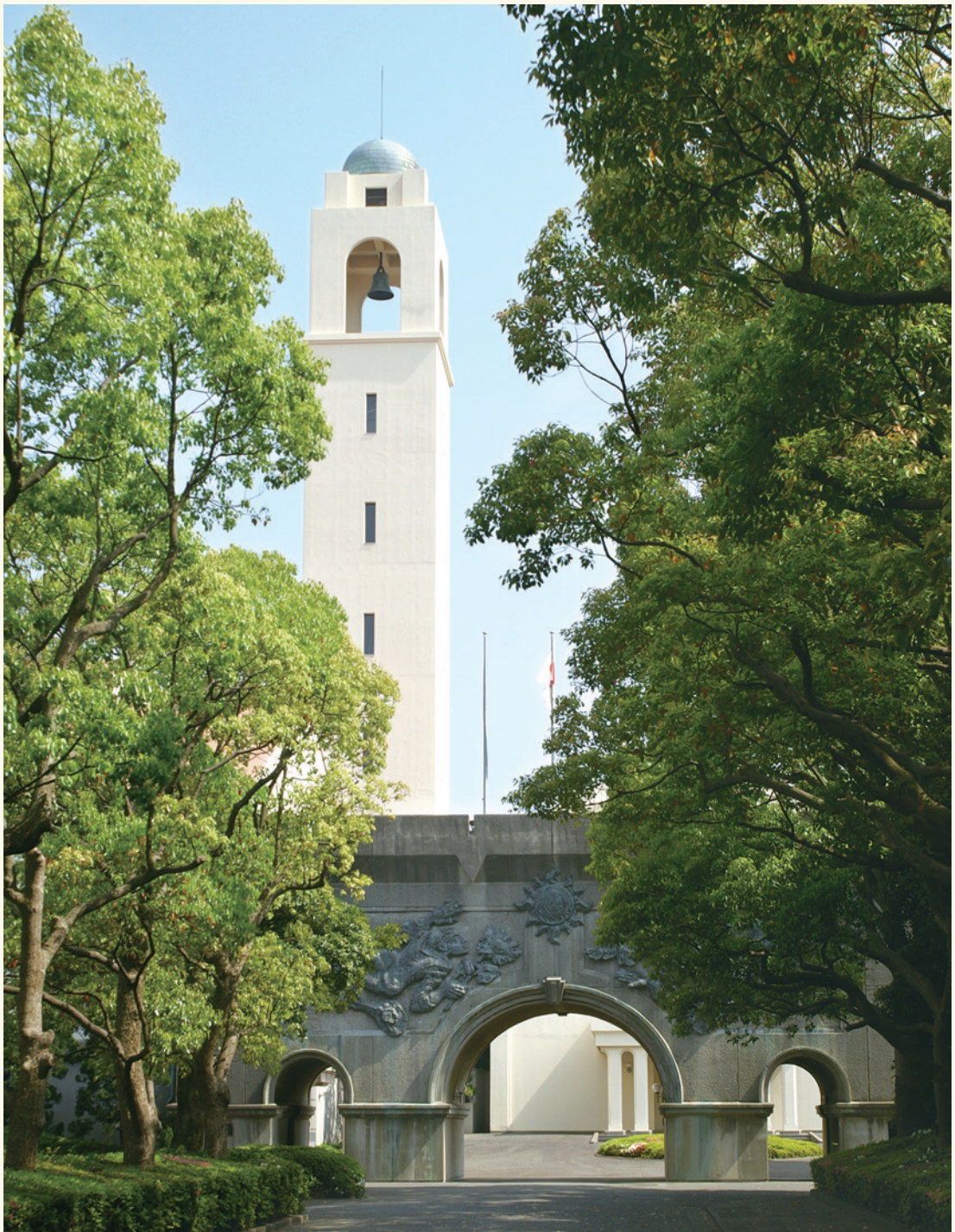
松下 幸之助

それを、諸君、やろうじゃないか。

政経塾をやろうと志したのは、今から10年前です。相談した方からも反対され、一度は断念しましたが、一向に好ましい状態に進んでおらない。ますます日本も世界も混迷している。自分が40年ほど若返ることができるなら、自分で世直しの先頭に立ちたいとさえ思いました。「やろう」「やめよう」と思い続けました。しかし、歳をとってからでは叶いません。それで、自分に代わって若い諸君に未来を託したいとあらためて松下政経塾の設立を決めたのです。「この塾の方針にかなった人が一名でもいれば開塾するのだ」と志を立てたのです。

政経塾の使命は塾是・塾訓にあるが如き仕事をすることです。つまり、国家百年の計を創り、実践し、日本を救い、世界を救い、人々の幸福に尽くすことです。塾生は身命を賭して、この使命に徹しきって欲しいと思います。使命は重大です。「それを、諸君、やろうじゃないか」というのが、私から皆さんへの呼びかけです。

〈 昭和55年春 入塾式と当時の講話より 当時85才 〉



ご挨拶

公益財団法人松下幸之助記念志財団
理事長

松下 正幸

新たなシナジーを目指して

祖父 松下幸之助は、94年の生涯においてパナソニックの創業、ＰＨＰ研究所や松下政経塾の創立に加えて、社会の発展に資する多くの財団を設立してまいりました。

2019年、「松下政経塾」と「松下幸之助記念財団」を合併し、新たに『公益財団法人松下幸之助記念志財団』を発足させて頂きました。

「松下政経塾」では、設立以来40年以上、有為な青年に研修の場を提供し、将来各界の指導者となりうる人財の育成に取り組んできました。一方「松下幸之助記念財団」では、我が国と諸外国との国際相互理解の増進とこれに資する国際人の育成、及び人間が自然を尊び調和しながら生きる共生社会の実現に貢献された方々への顕彰活動を進めてまいりました。

これら二つの財団は、松下幸之助の願いでもあります『人類の繁栄、幸福と世界の平和の実現』という共通理念を有し、共に人財育成に取り組んでまいりました。

合併を機に両財団を巣立ち研究成果を上げてきた「人的資源」、ご指導を賜ってきた多くの先生方や役員の皆様の「ご見識」、長年培ってきた「経営ノウハウ」等を相互に交流し、シナジーを高めつつ、更に積極的に初期の目的達成の為に取り組んでまいります。

今後ともよろしくご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。

建塾の理念を受け継ぎ、長期的展望を描くリーダーの育成を

松下政経塾はパナソニック ホールディングス株式会社(旧:松下電器産業株式会社)の創業者である松下幸之助が1979年に創立した私塾です。

その目的は塾是に示されているように「国家の政治・経営の理念を探求」し「人類の繁栄幸福と世界平和に貢献」することです。

以来45年を経た現在、まだまだその使命達成には道半ばというのが現状だと思います。この間、300名の卒塾生が政治・経営・学術などの分野で日夜精一杯の活動を続けそれぞれの「志」の成就に向けて努力をしています。

松下政経塾の使命は、卒塾生に続き塾生全員が国家の経営理念・ビジョンを探求しながら力強く実践活動を行うことです。そのために高い志を持ち、強い信念と責任感を持つ有為の若者たちに研修の場を提供し、切磋琢磨による成長を促します。

世界には今、国境を越えて解決すべき課題が山積しており、日本もまた、高齢化・人口減少・安全保障といった内憂外患に直面しています。これからの指導者には、まさに長期的ビジョンにもとづいた真のリーダーシップが求められています。
松下政経塾では「自修自得」「現地現場」を基本に長年の蓄積をもとに、リーダーシップの探究に注力していきます。

「地域経営」「国家経営」「2050年に向けて」…
道なき道を切り拓く「志」をもっている皆さん。是非、勇気と熱意を持って松下政経塾に飛び込んできてください。
私たちは待っています。

公益財団法人松下幸之助記念志財団
松下政経塾　塾長

遠山 敬史

求める人材

松下幸之助の求めた建塾の趣意を深く理解し、
自らの手で理想の日本と世界を創り出す強い信念と高い志を有する人材

“素直な心とは、私心なく、くもりのない心、とらわれない心”

応募資格

【年齢】 22歳～35歳

※詳細は募集・採用ページ（P.22）をご覧ください。

年限・処遇

【年限】 原則4年

※2年目修了以降、審査を経たうえで卒塾の時期を自身で選択することができます。

【処遇】 下記資金及び寮室を提供します。
在塾中は塾の活動に専念して頂きます。（兼職禁止）

1.資金
約270万円～約500万円／年間
※研修課程（基礎／実践）および研究・研修実績の審査結果により変動します。

2.住居
全寮制（松下政経塾敷地内） 寮費（3,500円／月）

松下政経塾は、建塾の理念に共鳴する有為の人材に対して、
国家百年の大計をつくり、実践者になるための「場」を提供します。

研修目的

国家百年の大計をつくる

国家国民の物心一如の真の繁栄をめざす基本理念を探求し、
国家の未来を開く長期的展望となるビジョンをつくる。

＋

実践者になる

強い信念と責任感、力強い実行力、国際的な視野などを幅広く
総合的に体得して、ビジョンを具現するリーダーになる。

研修方針

「自分でつかむ研修」

国家百年の大計をつくり、実践者になるための要諦は、人から教えられて身につくものではない。
松下政経塾では、「自分でつかむ」ことを研修理念とする。そのため、常勤の講師は存在しない。
師をもたずして師となった剣聖・宮本武蔵の如く、自分で要諦をつかみながら、国家百年の大計をつくり、実践者になる。

自修自得

新しい時代を創造する指導者は、自ら進むべき道を知り、開拓していかなければならない。自分が学ぶべきことを明確化し、そのために為すべきことを自ら考えて行動する中で、事の本質は初めて体得される。そのため、松下政経塾では常勤の講師をおかず、塾生自らが主体的に研修を組み立てて実践する。

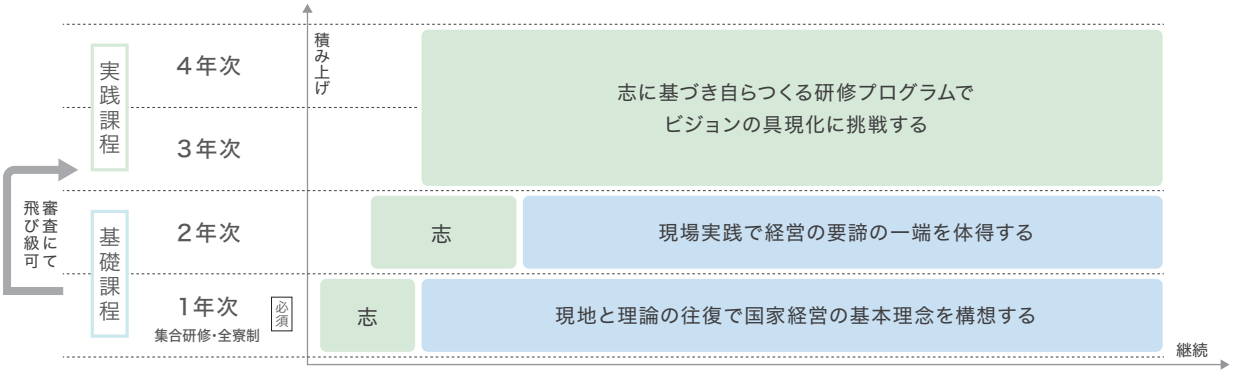
現地現場主義

あらゆる問題を解決して時代を切り拓く指導者は、現地現場に身を置いて問題の本質を見極めなければならない。常に当事者の立場となって、問題の核心は何か、いかにして解決すべきかを探る必要がある。ゆえに、松下政経塾の研修では、何事も現地現場における実体験に基づきながら考えて行動することを基本とする。

徳知体三位一体

指導者には、豊かな感性と深い洞察力に基づく幅広い知見とともに、力強く物事を実行していくための健全な肉体が求められる。しかし、すべての前提となるものは、真に人々の幸せを願って行動する人間性である。
よって、松下政経塾では、徳育に重点を置いて人間自身の向上をはかる。

研修の枠組み



研修概要

基礎課程

国家の長期的展望は如何にあるべきか、国家を経営する指導者に必要な資質とは何か。全寮制のもとで互いに切磋琢磨しながら自問自答を繰り返し、理想社会のビジョンに基づく実践者になるための志を固めていきます。

ビジョンをつくる

リベラルアーツ

人間観や国家観を涵養し
国家経営の基本理念を探求する

リベラルアーツ講座
歴史・哲学を中心にリベラルアーツを習得する

日本伝統精神研修
日本の伝統を体現する場や人を訪ねる

リベラルアーツ特別講座
人間とは何かについて考える

国家基本課題研究

国家の基本課題について、
座学と現場の両面から学ぶ

基礎講座
国家課題の論点を第一人者と講論し、
自身の判断軸をつくる

現地現場研修
国家課題の現場で人々と交わり実相をつかむ

地方創生研修
過疎地域の課題解決に現地で取り組む

グローバル連携

激動する世界の潮流を知り
日本の進路を探求する

海外研修
日本と異なる背景を持つ文明を体感・考察する

海外議会フェローシップ
諸外国の政府や議会で外交を学ぶ

海外NPOインターン研修
諸外国の非営利組織で経営を体感する

講師は各界の実践者

松下政経塾は「自修自得」の研修方針のもと、創立以来、常勤の講師を置かず、研修を進めています。
様々な分野でご活躍の方々に幅広くご登壇をいただいています。

※近年ご指導いただいた講師の皆様方（敬称略）を一部ご紹介します。

橋爪 大三郎 政治思想史 社会学者、東京工業大学 名誉教授	中満 泉 外交・国際協力 国際連合事務次長	小玉 重夫 教育学 白梅学園大学学長・東京大学教育学部客員教授	千 宗室 日本の伝統精神（茶道） 裏千家第16代家元
下井 直毅 経済財政・社会保障 多摩大学経営情報学部 教授	渡部 恒雄 外交・安全保障 公益財団法人笹川平和財団 上席研究員	苫野 一徳 教育哲学 熊本大学大学院教育学研究科 准教授	古賀 伸明 労働問題 公益社団法人国際経済労働研究所 会長
佐々木 雄一 近現代史 明治学院大学法学部 准教授	井上 章一 日本文化 国際日本文化研究センター 所長	増田 寛也 公共経営 日本郵政株式会社 取締役・代表執行役社長	茂木 健一郎 脳と心 脳科学者
落合 陽一 テクノロジーと文化 メディアアーティスト	青野 慶久 働き方改革 サイボウズ株式会社 代表取締役社長	佐藤 悌二郎 松下幸之助研究 株式会社PHP研究所 客員	宮田 裕章 データサイエンス 慶應義塾大学医学部 教授

塾生同士で切磋琢磨しながら、ビジョンをつくりリーダーとして研鑽する

経営の要諦を学びリーダーとして研鑽する

塾主理念研修

松下幸之助塾主の
建塾の理念や経営観を学ぶ

塾主研究
松下幸之助塾主のものの見方、考え方を学ぶ

関西研修
松下幸之助塾主ゆかりの地を訪ねる

経営実習
企業実習等を通じて経営理念を学ぶ

経営実践研修

企業経営や公共経営に参画し、
経営の要諦を学ぶ

企業経営現場研修
企業経営者のもとで経営を実体的に学ぶ

地方行政研修
地方自治体の内部から公共経営を学ぶ

社会起業経営研修
自らプロジェクトを運営し、経営を体感する

徳知体三位一体

理想社会を具現化する実践者に
相応しい人格を
備えるための修養を行う

早朝研修
毎朝、全員で体操・掃除・ジョギングを行う

茶道・書道・座禅
道や座禅を通じて自己を見つめる

100km研修
24時間の100km歩行で心身の限界に挑む

一日の研修スケジュール

松下政経塾の一日は、体操・掃除
ジョギングを行う早朝研修から始まります。
朝食後に朝会に臨み、一日の活動を確認して
夕方まで研修を行います。なお、夕食後の時間は
各自の研究・実践活動に充てられています。

塾内外の清掃

朝会での所感発表

食堂の様子

研修概要

実践課程

個別テーマに基づく研究・実践活動を展開しながら、ビジョンの具現化に取り組みます。
フォーラム開催等を通じて成果を広く社会に発信するとともに、各自の活動が厳しく問われる審査会に臨みます。

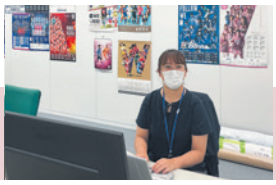
現地現場で実践活動

現役塾生

大瀧 真生子
〈42期生〉
2021年入塾

研修テーマ
それぞれの違いと変化を受容し
信じ合える社会の実現

自治体主催の生理研修にて
講師として大人の性教育の場を提供



女子プロサッカーリーグ事務局での
長期インターン

グローバルに活躍する女性リーダーとの
ネットワーク構築

松田 彩
〈42期生〉
2021年入塾

研修テーマ
米中関係を踏まえた
総合安全保障の探求

カツオで有名な鹿児島県枕崎市にて
鰹節関連工場をまわる

アイスランドで捕鯨事情や漁業資源管理
について調査研究

インド政府招聘プログラムに参加し
政治文化について学ぶ

国家経営

城井 崇
〈第19期〉
1998年入塾

研修テーマ
日本の安全保障の現場を歩く

自衛隊に体験入隊
30か所以上の自衛隊基地を自ら訪問

米軍基地跡地利用研究チームに参加
NIRAの政策提言を作成

カナダにて米国との同盟の在り方を研究
多くの仲間に恵まれる

地域経営

杉島 理一郎
〈第31期〉
2010年入塾

研修テーマ
地域教育による共同体の再構築

地域で子どもを育てる
地域教育を現地現場で推進

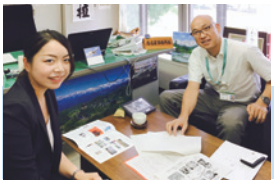
地域における食育について
農業研修を通じて考える

米国国務省の招聘プログラムで
「日米同盟の強化」を研究

社会起業

津曲 陽子
〈第37期〉
2016年入塾

研修テーマ
地域の国際化による発展の可能性

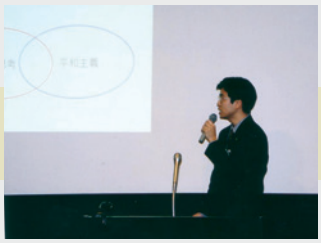


長野県庁におけるインターンシップにて
地域の国際化の現状や幅広さを学ぶ

イタリアの先進地域を訪問し
観光立国について探求する

デンマークを訪れ
地域社会のあり方について調査研究する

実践者として、現地現場でプロジェクトに取り組む

情報発信活動 卒塾論集やフォーラム等を通じて、実践活動の成果を社会に発信する	審査会 毎年、外部の審査員を招聘し、塾内で活動成果のレビューを行う		2024年4月現在	
		在 塾	在塾4年目 大瀧 真生子 スポーツを出発点とし、現在はジェンダーギャップ解消に取り組む。女性の健康課題や男性の生きづらさ、地域間格差等の解消を通じ、互いの違いや変化を受容し尊重できる社会の実現を目指す。	
		在 塾	在塾4年目 松田 彩 一次産業の強化によって、離島防衛や国土保全、食料安全保障問題の解決を目指す。全国津々浦々の浜や、水産業の関連場所を廻り、変化する世界情勢に応じた日本の漁業振興を探求中。又、捕鯨の最新動向を追っている。	
		卒 塾	衆議院議員 城井 崇 福岡県北九州市出身。元文部科学大臣政務官。日本の公教育再生に取り組み、大学入試改革に尽力している。	
		卒 塾	埼玉県入間市長 杉島 理一郎 行政改革と未来産業構想を通じて、自治体経営の舵取りを担う。塾生時代の被災地経験が転機となって故郷の地域づくりに生涯をかけて取り組んでいる。	
		卒 塾	NPO法人 「日本で最も美しい村」連合 事務局長 津曲 陽子 地域の魅力がいつまでも輝く未来を目指し、ブランド価値を高める活動や発信に取り組んでいる。	

松下政経塾の卒塾生から未来のリーダーたちへ

逢沢 一郎 〈第1期〉

衆議院議員

松下幸之助塾主が、今の日本を見たら、何と言うでしょうか。「あんたら何やっとんや。もっとしっかりせんとあかんやないか。」そんな声が聞こえてきます。日本をよい国にする。みんなで頑張ろうではありませんか。

鈴木 康友 〈第1期〉

前静岡県浜松市長

「住民に最も身近な基礎自治体が、素晴らしい都市経営を行えば、必ず国もよくなる」。そんな思いで日々市政運営に取り組んでいます。高い志と自ら人生を切り開く強い信念を持った有為な人材が、続々と巣立つことを期待します。

野田 佳彦 〈第1期〉

衆議院議員

私は、塾是にある「真に国家と国民を愛し」という言葉を胸に行動してきました。これからも松下塾主の描いた理想の日本に近づけるよう「正心誠意」力を尽くしていく決意です。志を同じくする未来の塾生を歓迎します。

橋川 史宏 〈第1期〉

一般社団法人ツーリズムみはま 理事
和歌山大学大学院 客員教授

塾生が学ぶべきことの一つは、政治、経済の中にも確かな真理が存在することと、それを現場で探求し続ける胆力を練ることの大切さです。これを信じられる人こそ、松下政経塾の期待する指導者なのだと、私は思います。

横尾 俊彦 〈第1期〉

佐賀県多久市長

市長職に奔走しつつ、政府審議会の委員も務めています。現場だからわかる課題、市民が希求する未来を原点に行動します。前例なき行政創造にも挑みます。首長はCEO（最高経営責任者）です。あなたも是非挑戦を。

神藏 孝之 〈第2期〉

イマジニア株式会社 取締役会長 ファウンダー

松下幸之助が目指した人材育成とは「商売のわかる政治家・役人を創る」「人間の器量を磨く」ことではないか。グローバル化や少子高齢化など時代環境が激変する中で、経営マインドと人間力こそがリーダーの不可欠な要件だと思う。

本間 正人 〈第3期〉

NPO法人学習学協会 代表理事
社会構想大学院大学 客員教授

学習する地球社会（Learning Planet）のビジョン構築が、私のライフワーク。政経塾での体験を元に、教育学を超える「学習学」を提唱しています。個人、組織、地域の可能性を引き出し、世界一創造的な国・日本を創りましょう！

前田 正子 〈第3期〉

甲南大学マネジメント創造学部 教授

日本は、世界のどこも経験したことのない少子高齢化と人口減少の波を乗り越えていかなくてはなりません。様々な分野で新しい知恵や仕組みが求められます。皆さんのなすべきことは、山積みかもしれません。

松沢 成文 〈第3期〉

参議院議員

松下政経塾は、国家国民のために何を成すべきかを問い、突き詰め、志を確立するための道場です。リーダーシップとチームワークを合わせもち、活力が生まれる強い組織をつくる。そのための修業に挑戦してみませんか。

原口 一博 〈第4期〉

衆議院議員

この人と3分話せば自分も何か社会のために力を出せるのではないか。そう思わせるような力。太陽の光のような暖かく力強い力。それが松下幸之助さんでした。私達は志を継ぐ者。引き出す力を継ぐ者です。志一つ持参のこと。さあ、一歩踏み出しましょう。日本の繁栄と世界の平和の為に。

毛利 勝彦 〈第4期〉

国際基督教大学 教授

1970年代危機のさなか21世紀日本の夢から逆照射してこの塾は創られた。いま世界は2030年に向けたグローバル目標をムーンショットとして動いている。人類が地球環境を変えてしまった時代に、繁栄と幸福と平和をどう実現するか。新しい被投的投企はもう始まっている。あとはチームづくりだ。

伊藤 達也 〈第5期〉

衆議院議員

知恵なき政治の末路が増税だという塾主の思いを原点に、国家経営のあり方について後輩塾生たちと真剣に議論を重ねてきました。志を同じくし、塾主の描いた社会の実現に挑戦する若い方々の活躍を期待しています。

高市 早苗 〈第5期〉

衆議院議員

在塾中に得たものは、今も日々の政策判断や行動に際して「物差し」としている確固たる価値観です。入塾される皆様、松下幸之助研究を極めてください。自らの使命への力強い信念が生まれ、行動規範が定まります。

田辺 信宏 〈第6期〉

前静岡県静岡市長

「未来へ向けて、自分が思った以上の自分にはならない。」塾生時代、こう諭されたことがある。確かにその通りだった。是非とも高くて堅い志の下、目指すべき自分と社会の姿を思い描き、千里の道を一日一日大切に歩んでいって欲しいと願う。

清水 勇人 〈第7期〉

埼玉県さいたま市長

座右の銘は、素志貫徹。志は、地球上から戦争と飢えをなくすこと。活動領域は国際から地方自治に変わっても、塾で学んだ、今も変わらない私の原点。さあ志を持って、松下政経塾の門を叩いてください。未来を拓くのは皆さんです。

中原 好治 〈第7期〉

広島県議会議員

人生において、必要なお金と自由な時間がある時期というのはそうはありません。政経塾で過ごす数年間というのはまさにそういう時期で、自分の頭で考え、動き、貴重な出会いを重ねながら「志と覚悟」を固めていく場だと思っています。

玄葉 光一郎 〈第8期〉

衆議院議員

今、日本は歴史的分水嶺を迎えています。我々の行く手にはいくつもの困難が立ちはだかっています。しかし、「ピンチはチャンス」。松下幸之助塾主の教えを胸に、一緒に眼前の課題を乗り越えて行きましょう。

関根 里佳子 〈第8期〉

株式会社SMBC信託銀行 常務執行役員

ありとあらゆる情報が簡単に手に入る時代。自らの判断軸と「基礎知力」「胆力」が益々問われます。政治家とは違う人生を歩んできた私ですが、政経塾において人生の土台を築く濃厚なひと時を過ごせた事、そしてそこから派生するご縁がずっと繋がっている事が財産です。

竹内 美紀 〈第8期〉

東洋大学文学部 准教授

松下政経塾には人生を豊かにしてくれる出会いがあります。尊敬する師や生涯の友、人生の岐路で支えとなる書物と出会い、志を問われ続ける中でぶれない自分を育てる。挑戦する人生を送りたい人のための研鑽の場です。

前原 誠司 〈第8期〉

衆議院議員

塾主が生きておられたら、我々は大いに叱られるだろう。「これだけ塾出身の議員や首長がいながら、日本の今の状況は何だ」と。まだまだやらねばならないことが沢山ある。この国を何とかしたいと思う志ある仲間を求む。

加藤 政徳 〈第9期〉

人の森株式会社 代表取締役社長

人生は短いものです。「いつか」と思っているうちに、50代、60代となってしまいます。たった一度の人生です。世のため、人のため、「お役に立ちたい」という思いがあるのであれば、今すぐ松下政経塾の門を叩いてください

桑畠 健也 〈第9期〉

農研機構本部 NARO開発戦略センター 主席研究員

松下幸之助は、人間はどういうものかを、この塾でしっかり掴んでくれ、と。人間はもっと凄い存在なんだ。まだその本来の能力を発揮していないだけだ。つくづくそう思う方はぜひ塾の門を叩かれんことを期待します。一緒に世界を変えましょう。

加藤 芳洋 〈第10期〉

米国弁護士

外を見る。外を知る。日本は世界とどう向き合うか。海外に出たから見えるものも、できることもある。外交でも貿易でも教育・文化でも、政経塾から世界に出ていく。ソウイウモノニなりたい人も建塾の理念に適うと信じています。

坂井 学 〈第10期〉

衆議院議員

様々な行動計画策定に関しては、どこまで見通しどの範囲までを考慮に入れるかが大事です。目先の現象・利益に影響されがちな私たちにとっては松下幸之助塾主が言われる「素直な心」が大きな力になると思います。

小野寺 五典 〈第11期〉

衆議院議員

我が国を取り巻く安全保障環境は戦後、最も厳しいと言っても過言ではありません。また、私の故郷、宮城県は東日本大震災からの復興の道半ばです。元防衛大臣・被災地出身の議員として、常に塾是・塾訓、そして「万事研修」「素直な心」の教えを忘れずに不退転の覚悟で取り組んで参りました。松下政経塾で多くを学び、同志として活躍していただけるよう、ご期待いたします。

福山 哲郎 〈第11期〉

参議院議員

この塾には未来の成功を約束するチケットはありません。あるのは「自修自得」するための時間と空間へのチケットだけです。それでも自らの志を持って、新しい道を切り拓く、そんな気概の新しい仲間を歓迎します。

村井 嘉浩 〈第13期〉

宮城県知事

松下政経塾は、志がありそれを具現化する計画性とその計画を実行するだけの能力はあるがそれを生かす土壌のない者に、土(研修の機会)と肥料(松下幸之助塾主の思想哲学)を与えてくれる所です。有為な人材を待っています!

渡辺 猛之 〈第13期〉

参議院議員

永い人生において、自分の志に正面から向き合い、その達成に必要な力をつけるための十分な時間と機会を与えてくれる場所というのは、そうそうあるわけではありません。その場と友が、松下政経塾にはあるはずです。

藤崎 育子 〈第14期〉

開善塾教育相談研究所 所長

塾生時代、現地現場の研修で、ひきこもる青少年の家庭や学校に出向く訪問相談という仕事に出会いました。今で言うアウトリーチです。いじめや不登校といった問題を減らし、子どもにとっても、先生にとっても「楽校」となるような仕事をしたいと思っています。

藤澤 利枝 〈第14期〉

社会福祉法人ユーアイ村 理事長
株式会社ユーアイデザイン 取締役

ユーアイには、保育園があり、特養があり、障害者の施設があり、高齢者も働いているし、障害者も働いています。「まるっとユーアイ」と名付けています。多様性あるインクルージョンな社会の実現を共にめざしましょう。

横江 公美 〈第15期〉

東洋大学国際学部 教授

政経塾の5年間で私の人生は変わりました。政経塾は最後までやり通すことと努力は裏切らないことを学ぶ場所です。そして、何かあった時に相談する一番の仲間もできます。新しい仲間を楽しみにしています。

白井 智子 〈第16期〉

NPO法人新公益連盟 代表理事

政経塾の現地現場主義に導かれて国内外の学校現場に飛び込み、不登校の子どもの支援という仕事に出会いました。学校をつくり、新しい法律もできました。誰も取りこぼさない教育をつくるために。今もずっと、政経塾の仲間との繋がりに支えられ続けています。

高野 靖子 〈第17期〉

東京大学大学院法学政治学研究科 助手・留学生担当

政経塾のおかげで、自分の天職と巡り会い留学生受け入れの仕事を20年続けています。日本のよき理解者、相互理解の礎となる人材が一人でも多く育つよう尽力しています。真に平和に貢献したいと思う仲間を待っています。

金子 将史 〈第19期〉

株式会社PHP研究所 取締役常務執行役員
政策シンクタンクPHP総研 代表・研究主幹

今を生きる私たちは国家や社会、人間のあり方を問い直す歴史的な機会に立ち会っています。先人から受け継いだものを世界の舞台で飛躍させる、新しい感性と強い志をもつ人たちは、ぜひ政経塾を目指してください。

島川 崇 〈第19期〉

神奈川大学国際日本学部 教授

いつの間にか、言いたいことが言えないこんな世の中になってしまった。もう一度誰もが自分の意見を自由に表明できる世の中にするところに、これからの松下政経塾の使命があると、私は最後の期待を塾に託したい。

喜友名 智子 〈第20期〉

沖縄県議会議員

「真に国家と国民を愛し」から始まる塾是は、沖縄の政治には非常に重い意味を持ちます。沖縄、アジア、日本、米国が重なる島々に必要な政治を、「21世紀はアジアの時代だ」という塾主の考えに学んだ貴重な3年でした。

白岩 正三 〈第22期〉

大阪府豊中市議会議員

生きづらさを感じる世の中になりました。多様な価値観が交錯する中で、めざすべき社会像を示すのは至難の業です。人間とは何かに真正面から向き合い、平和と幸福の実現に地道に歩み続けることができるリーダーが必要です。

三日月 大造 〈第23期〉

滋賀県知事

「全人類の幸せ」のために…1980年、松下幸之助塾主は、政経塾の真のねらい、究極の目標は、全人類の幸せということに挑戦し、達成すること、と述べられた。「一朝一夕にはできない」「でき易いところはもう皆済んでいる」とも。そのために、一緒に、歩みを始めませんか?

谷中 修吾 〈第24期〉

ビジネスプロデューサー
BBT大学大学院 経営学研究科 MBA 教授

社会起業を手がけていたとき、親しい方から、偶然、松下政経塾を勧められました。初めて塾のサイトを見て、松下幸之助塾主の想いの詰まった設立趣意書に感銘を受けたことが全ての始まりです。ご縁が導く世界へようこそ。

松下 玲子 〈第25期〉

前東京都武蔵野市長

松下政経塾では決して諦めない事。チームワークや仲間の大切さを学びました。落選中、支えてくれる仲間を励みに頑張ることができました。成功の要諦は成功するまで続けることにあります。共に頑張りましょう。

安田 壮平 〈第25期〉

鹿児島県奄美市長

「松下政経塾は、人間を磨き、志を磨く道場である」。徹底して自分と向き合う。将来達成すべき「志」とは何かを錬磨する。そして、仲間と切磋琢磨して絆を深める。生涯忘れ得ない研鑽の日々が、貴方を待っています。

兼頭 一司 〈第26期〉

株式会社空と海 代表取締役
海賊の学校 キャプテン

リーダーシップも、変革も形は一つじゃない。その常識を打ちやぶれ。その困難を超えてゆけ。世界はもっと面白くなれる。ぼくらはもっと幸せになれる。ワクワクしよう。

源馬 謙太郎 〈第26期〉

衆議院議員

卒塾してから2度の落選、5年間の浪人を経験しました。心が折れそうな時もありましたが、志が失われない限り前に進もうと思えたのは塾主の「大忍」の教えと、全国で同じように戦っている同志の存在でした。政経塾は必ず大きな財産になります。

坂野 真理 〈第26期〉

虹の森クリニック院長 児童精神科医

「良い社会」とは何か。自分はそのために何ができるのか。政経塾ではその問いに応えるための「志」を考え抜く機会と仲間を得ることができます。あなたの思いを社会を変える力とするために、ぜひ政経塾の門を叩いて下さい。

熊谷 大 〈第28期〉

宮城県利府町長

自治体のトップとして「東北を豊かに」を素志に、行政に取り組んでいます。松下政経塾では志を磨く時間と併せて、自分の「人生のテーマは何か」をよく考えました。皆さん、互いに明日の日本のために頑張りましょう!

大谷 明 〈第29期〉

茨城県ひたちなか市長

「不易流行」。変えてはいけないものと、時代や環境に合わせ変えなければならないもの。その見極めは難しい。様々な出来事に対して判断を求められた時、判断の座標軸がないと流されてしまう。その軸を定める時間を過ごしてもらいたい。

冨岡 慎一 〈第29期〉

WHOコンサルタント・広島大学 客員准教授
ことのはコラボレーションクリニック 代表(医師)

政経塾で過ごした3年は人生で最もかけがえのない時間でした。今も変わらず超高齢社会における医療福祉の在り方を探究しています。一生崩れない志の塔を建てる場所、それが政経塾。志のある人に、人はついていくからです。

内田 直志 〈第31期〉

福岡県みやこ町長

在塾中もっとも意識したことは「人間の把握」、つまり人間を学ぶことでした。塾主の謦咳に接することはできなくても、講話録やご生前を知る方々を通じて塾主と向き合い続けた三年間。同行二人で志す道を歩める今に感謝しています。

丸山 哲平 〈第32期〉

東京都国分寺市議会議員

変化の時代こそ人間や物事に根本から向き合い、悩み、そして答えを持つことが必要です。政経塾で現地現場を通じ学んだ松下塾主の思想哲学は「軸」として実感をもって私を支えています。皆さんの志に応えるものがここにはあります。一緒に未来を拓きましょう。

林 俊輔 〈第33期〉

株式会社de la hataraku 代表取締役
アジアユニバーサル農業研究会 事務局

「人の幸せ」とは何か。人の営みの根源である食と農の現場から、政経塾在塾時代から現在まで変わらず、真剣に悩み、実践し続けています。松下政経塾の理念は灯台のごとく、迷わないよう我々塾員のよりよい社会づくりへの挑戦の道を照らしてくれます。ともに未来へ歩みましょう。

斎藤 勇士アレックス 〈第34期〉

衆議院議員

松下政経塾での4年間で、一つの仕事や場所に留まっていたのでは得られなかった知識と多くの同志を得ました。今、日本の様々なシステムが機能不全を起こしており、変革が求められています。次代の日本の国造りに共に取り組みましょう!

木村 誠一郎 〈第35期〉

(一社)離島エネルギー研究所 代表理事
(公財)自然エネルギー財団 上級研究員
九州大学 招聘准教授

「自ら反みて縮くんば、千万人と雖も、吾往かん」。この言葉通り、身命を賭して取り組む志を磨き、実践に向け動き出すための道場が、私にとっての政経塾でした。志のみを持参し政経塾の門を叩いてください。

重岡 晋 〈第38期〉

SHIN SHIGEOKA STUDIO 代表／彫刻家

「人間は万物の王者。」塾で出会った松下幸之助の言葉です。人間とは何か?を問い、藝術作品、ブランド、リベラルアーツ、全てが彫刻であると考え地域で活動しています。物事の本質と対話し、大切な人とつながり、大きな世界に通じる場を共に作っていきましょう。

馬場 雄基 〈第38期〉

衆議院議員

2045年、福島の復興を前に進める。松下政経塾で自問自答した日々が、今の私につながっています。物事の本質を見究め、確固たる軸をつくり、よりよい社会を紡ぐ同志を心から歓迎いたします。

卒塾生の進路

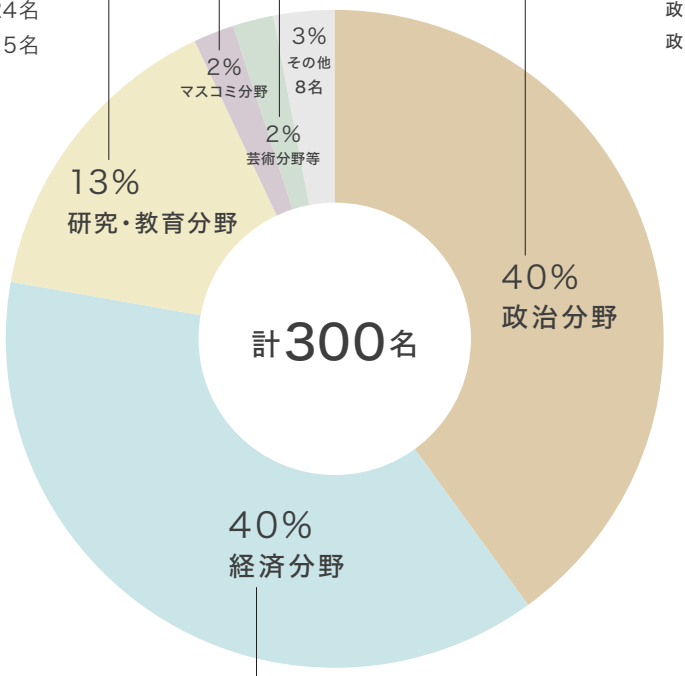
松下政経塾の卒塾生は、政治家、企業経営者、社会起業家、
教育者、研究者など、様々な立場で各界に活躍の場を広げています。
それぞれの志の実現に至る道は、松下政経塾を卒塾した後も、生涯にわたって続いていきます。

芸術分野等　7名

マスコミ分野　6名

研究・教育分野　38名

研究者（シンクタンク職員等）	9名
教育者（教授・講師・教職員等）	24名
専門職（医師等）	5名



政治分野　120名

国会議員	**35名**
衆議院議員	26名
参議院議員	9名
地方議員	**27名**
都道府県議会議員	10名
市区町村議会議員	17名
首長	**11名**
知事	2名
市長	7名
町長	2名
政策スタッフ	**8名**
政治活動等	**39名**

【国政政務職経験者】

内閣総理大臣	1名
大臣	14名
副大臣	26名

【地方(首長)経験者】

知事	3名
市長	18名
特別区長	1名
町長	2名

経済分野　121名

企業経営者／役員／社員	87名
社会起業家／NGO・NPOスタッフ	16名
専門職（弁護士等）	7名
団体職員（財団職員・組合職員等）	11名

2024年4月1日現在

福下寺之助氏像

塾生プロフィール

42 期生

伊崎 大義
（いざき たいぎ）
1995年2月16日

研究・実践テーマ
自立した地方政府による「多極国家日本」の実現

福岡県北九州市出身。大阪大学人間科学部卒業後、関西電力で燃料貿易、オトバンクでITビジネスに携わったのち入塾。この国の閉塞感を打ち破るには、自立した地方政府による多様なソリューションの追求こそが重要であると考え、地方分権と国内外の都市間連携を通じた日本の繁栄を目指す。

市川 広大
（いちかわ こうだい）
1995年5月22日

研究・実践テーマ
普遍的価値を共有する国々との連携による豊かな国際社会の実現

埼玉県熊谷市出身。慶應義塾大学法学部卒業後、同大学院及び東京大学大学院修士課程を修了。権威主義国の国際社会における影響力の拡大、領土的野心、人権侵害に危機感を覚える。普遍的価値を共有する国々との連携を通じた総合安全保障の実現と、日本をはじめとした自由主義国のプレゼンスの拡大を目指す。

大瀧 真生子
（おおたき まおこ）
1997年10月6日

研究・実践テーマ
それぞれの違いと変化を受容し信じ合える社会の実現

茨城県出身。早稲田大学教育学部卒業。女性アスリートの環境改善にはじまり、現在は日本社会のジェンダーギャップ解消に取り組む。女性の健康課題や男性の生きづらさ、地域間格差等の解消を通じ、互いの違いや変化を受容し尊重できる社会の実現を目指す。

松田 彩
（まつだ あや）
1988年7月8日

研究・実践テーマ
米中関係を踏まえた総合安全保障の探求

広島県広島市出身。オハイオ州立大学国際関係学部卒業後、北京大学大学院哲学部中国哲学専攻。大学講師を経て入塾。世界情勢の変化に対応できるよう、日本を牽引する為政者になるべく研鑽を積んでいる。主に、第一次産業の強化、領土・領海・領空の防衛に注力し、世界平和に寄与する。

43 期生

水上 裕貴
（みずかみ ゆうき）
1994年11月14日

研究・実践テーマ
哲学・宗教・芸術を通じた「観想・寛容・感動」社会の実現

北海道札幌市出身。東京学芸大学大学院修了。ドイツ・ハイデルベルク大学哲学部への留学を契機に、「真・善・美」の哲学的問いに関心を持つ。言葉や事象の背後にある原像を扱う哲学、宗教、芸術を頼りに、「観想・寛容・感動」社会の実現を目指している。

赤木 亮太
（あかぎ りょうた）
1994年4月30日

研究・実践テーマ
公教育改革を軸とした大らかな心で満ち溢れる共生社会の実現

愛知県日進市出身。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。小学校に勤務する中で、複雑な生きづらさを抱えた子どもや保護者を内包するためには制度にアプローチする必要性を実感。公教育を軸に探求し、誰もが必要な時に頼り合える社会の実現を目指す。

清水 紀沙
（しみず きさ）
1999年1月29日

研究・実践テーマ
誰もが自尊心をもち、生き生きと幸福を追求できる社会の実現

宮崎県出身。近畿大学法学部法律学科卒業。海外生活で外国人が自らのルーツや国を愛する姿を目の当たりにし衝撃を受ける。日本が国際社会で生き残る道筋を示すことで将来への不安感を取り除き、誰もが自尊心を育み、生き生きと幸福を追求できる社会の実現を目指す。

出口 洋希
（でぐち ひろき）
1997年9月3日

研究・実践テーマ
家族を支える地域社会の実現

滋賀県大津市出身。同志社大学法学部卒業。大学在学中に出会った家族や、自身の経験から、多様な家族のかたちが存在することを実感。入塾後、地域や文化等に着目し、家族を支える社会の実現に向けて研修を行う。

44 期生

三藤 壮史
（みとう まさし）
1997年2月12日

研究・実践テーマ
多様化する家族観を包摂する社会の探究

広島県福山市出身。国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科卒業。自らの家庭環境と大学における分野横断的な学びを通じて、人生の様々な局面で家族に頼らざるを得ない日本社会のあり方に危機感を覚える。多様な家族観を包摂する社会づくりを探究する。

渡邊 真太朗
（わたなべ しんたろう）
1992年11月8日

研究・実践テーマ
首都機能移転等を含めた地方分散社会の実現

栃木県那須烏山市出身。学習院大学経済学部卒業。足利銀行勤務を経て、栃木県知事後援会事務所入所。人口減少が進む都市部と地方の格差是正や地方創生の必要性を強く感じ、東京一極集中の解決と首都機能移転等を含めた地方分散社会の実現を目指す。

遠藤 太郎
（えんどう たろう）
1995年6月29日

研究・実践テーマ
故郷の復興・創生の実現に向けた未来志向の町づくりの探究

福島県双葉郡広野町出身。慶應義塾大学総合政策学部卒業。伊藤忠商事にて木材の輸出入や建材関連のDX事業に従事した後、入塾。東日本大震災で被災した経験から、故郷福島の復興・創生・新創を目標に、子どもたちが誇りを持てるような未来志向の町づくりを目指す。

桶屋 誠人
（おけや まさと）
1995年10月31日

研究・実践テーマ
先端科学技術の社会実装が促進される社会の構築と実現

茨城県出身。東京工業大学卒業後、東京大学大学院理学系研究科修士課程修了及び同大学法科大学院中途退学。大学院在学中より衆議院議員事務所にて秘書業務に従事。衰退する日本の科学技術の現状に危機感を覚え、イノベーションが促進される社会の実現を志し入塾。

落合 拓磨
（おちあい たくま）
1997年10月6日

研究・実践テーマ
住み続けられる地方都市と日本海側を基軸とした国土の構築

山形県天童市出身。京都大学大学院法学研究科修士課程修了。東日本大震災を契機に、東京と地方、太平洋側と日本海側の地域間格差に疑問を抱く。出身地にかかわらず進学や就労の機会均等が保障された国土づくりと、日本海側地域の連繋強化の実現を目指し入塾。

加藤 みづな
（かとう みづな）
1999年9月9日

研究・実践テーマ
経済性と幸福を両立する新日本的経営の探究及び若手企業家の育成

愛知県春日井市出身。大阪大学外国語学部卒業。在学時に経営者教育に携わる中で、現在の企業経営と次世代を担う若年層の起業率の低さに危機感を持つ。世界の人々に敬愛される若手企業家の育成、経済性と幸福を両立する新しい「日本的経営」を探求するべく入塾。

並松 沙樹
（なみまつ さき）
1989年12月13日

研究・実践テーマ
次世代へプラスの財産となる社会資本整備の探究と新土建国家構想

愛知県半田市出身。東京工業大学大学院環境・社会理工学院博士課程修了。博士（工学）。鉄道会社で土木構造物の維持管理や研究開発に従事する中で、工学領域を超えて俯瞰的視点を持った社会実装者として、日本が抱える国土政策の課題を解決したいと考え入塾。

45 期生

小薄潤弥

（おすき じゅんや）

1995年6月29日

研究・実践テーマ

地域間格差の解消における子どもが安心して夢に挑戦できる環境の実現

京都府宇治田原町出身。関西大学総合情報学部卒業。NTT西日本で事業者支援及びシステム開発に従事後、個人事業主として自身のまちを活性化する中で日本の活力が弱まっている現状に危機感を抱く。地域間格差の解消と、子どもたちの夢を最大限に後押しできる社会を志し入塾。

片山 大鷹

（かたやま たいよう）

1999年7月22日

研究・実践テーマ

人的資源の再配分を軸にした経済大国の実現

岡山県岡山市出身。京都大学経済学部卒業。在学中、経済成長理論を専攻する中で、現代社会で多く発生している各分野の人材不足や、教育と就労のミスマッチに危機感を抱き入塾。人的資源の再配分を軸にした経済大国の実現を目指す。

斉藤 竜貴

（さいとう りゅうき）

1996年2月26日

研究・実践テーマ

100年後に国際社会で生き残れる主権国家日本の実現

神奈川県横浜市出身。早稲田大学政治経済学部を卒業後、防衛省陸上自衛隊に入隊。幹部自衛官として勤務する中で、日本が「領土、国民、民主主義を基調とする主権」を守り抜く重要性を痛感。100年後に国際社会で生き残れる主権国家日本の実現を目指し入塾。

野田 怜弥

（のだ れいや）

2000年1月20日

研究・実践テーマ

共感を生む情報発信によって当たり前に助け合う世界を目指す

熊本県出身。横浜市立大学国際総合科学部卒業。在学中はNGOインターンとしてウガンダで活動。国内外のNGOと関わる中で、課題が山積し改善・解決が追い付いていない現状に危機感を抱き入塾。共感を生む情報発信によって、当たり前に助け合う世界を目指す。

山下 かおり

（やました かおり）

1994年1月16日

研究・実践テーマ

違いを受容し互いの可能性を最大限活かし合える社会の創造

神奈川県出身。高校卒業後、スイスとアメリカへ留学。帰国後、大阪大学人間科学部に進学する。卒業後、地域活性コンサル会社、就労移行支援事業所で勤務する。障害のある家族の当事者として、一人ひとりの可能性が発揮される社会の実現を目指し入塾。

山中 貞正

（やまなか さだまさ）

1995年8月1日

研究・実践テーマ

文化大国日本の実現

東京都世田谷区出身。慶應義塾大学総合政策学部卒業。芸能活動、米国留学、スタートアップ支援等を経験する中で、日本の文化力に希望を見出す。世界に誇る文化国家として、文化の力を通して世界の繁栄、平和、幸福に貢献する「文化大国日本」の実現を目指す。

募集・採用

未来のリーダーを発掘する独自の選考

松下政経塾は、「理想社会のビジョンをつくり、その実践者になる」ことに共鳴する、志をもつ未来のリーダーたちを幅広く受け入れています。選考は年に2回（前期・後期）合宿選考を含む独自の選考プロセスで、本気の挑戦に応えます。

選考概要

新卒選考	対象：2025年3月大学・大学院卒業（修了）見込みの方	**社会人選考**	対象：22歳から35歳の方（エントリー時点）

募集・選考の流れ

詳細は松下政経塾ホームページ https://www.mskj.or.jp/entry/ にてご確認ください。
WEB上で説明会の詳細もご覧いただけます。

【エントリー期間】 前期エントリー：12月～2月／後期エントリー：6月～8月

エントリー	WEBエントリー後、選考要領説明会（オンライン）を実施します。
1次選考	一次選考書類を提出後、書類選考を実施します。
2次選考	一泊二日の合宿選考。面接・筆記試験等を実施します。
3次選考	最終選考。松下政経塾役員や有識者による個人面接を実施します。

※社会状況に応じて、選考日程等が変更になる場合がございます。

ライブラリー

https://www.mskj.or.jp/webinfo/

WEB上で、松下政経塾紹介映像
現役塾生インタビュー
卒塾生の活動動画等をご覧いただけます。

説明会・見学会

年間を通じて会場・オンラインでの説明会、茅ヶ崎での塾見学会を開催しています。

インターンシップ

塾生の研修・生活が体験できる宿泊型の「3daysインターン」やオンライン型の「1dayインターン」を開催しています。

「今は何者でもないあなたへ」

松下政経塾に対して、優秀な人間が集まるイメージを持っている方もいるかもしれません。
それは、違います。真に優秀な人間であれば、松下政経塾を経ることなく、選挙に出るなり、起業するなり、早く社会で活躍して貢献すべきです。公のために尽くす素志を抱きながら、想いはあるけれどどうすれば良いかわからない、志だけでは無理かもしれないと悩んでいる、今まさしくこのメッセージを読んでいるあなたを待っています。
今は何者でもないあなたこそ、松下政経塾の門を叩いてみませんか。

松下政経塾　塾頭　尾関 健治

社会連携活動

松下幸之助の思い、ビジョンを広く社会と共有する

松下政経塾では、松下幸之助塾主の描いたビジョンを広く社会と共有するために、社会連携活動を推進しています。
社会を構成するのは私たち一人一人であり、社会づくりは「みんなで、一緒に」取り組んでいく必要があります。
そのためにも、私たちの社会はどうあるべきかを深く考え、対話し、行動していく機会を設けることが重要です。
そこで、塾主の描いたビジョンを拠り所に、より多くの方々が社会づくりについて考え、実践へとつなげる場づくりを着想しました。
松下幸之助杯スピーチコンテストや公開講座など、様々な切り口で各種プログラムを展開しています。

松下幸之助杯スピーチコンテスト

2020年度より毎年、未来のビジョンを描き、
SDGs等の社会課題に取り組む若者を応援する
スピーチコンテストを開催してしています。

公開講座

「開かれた松下政経塾」の方針のもと、様々な公開講座を実施しています。

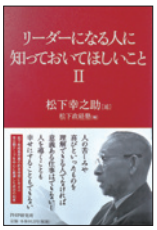
講 演

松下幸之助塾主の思いや松下政経塾の建塾理念を
広く深くご理解いただくために、講演活動を行っています。

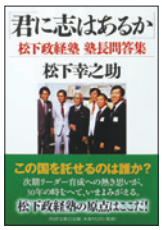
松下幸之助塾主の講座に基づく書籍

「松下幸之助が考えた
国のかたち」（PHP刊）

「リーダーになる人に
知っておいてほしいこと」
（PHP刊）



「リーダーになる人に
知っておいてほしいことII」
（PHP刊）



「君に志はあるか」
（PHP刊）

「リーダーを志す君へ」
（PHP刊）

FOUNDER

〈松下政経塾塾主〉

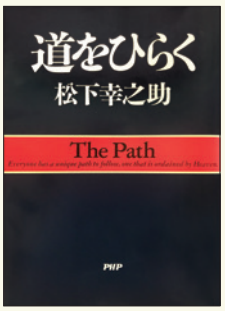
松下幸之助

略歴

パナソニック（旧松下電器産業）グループ創業者、PHP研究所創設者。
明治27（1894）年、和歌山県に生まれる。
9歳で単身大阪に出、火鉢店、自転車店に奉公ののち、大阪電灯（現関西電力）に勤務。
大正7（1918）年、23歳で松下電気器具製作所（昭和10年、株式会社組織に改め松下電器産業に改称）を創業。
昭和21（1946）年には、「Peace and Happiness through Prosperity=繁栄によって平和と幸福を」のスローガンを掲げてPHP研究所を創設。
昭和54（1979）年、21世紀を担う指導者の育成を目的に、松下政経塾を設立。初代塾長として舵を取り、九十四歳で永眠。松下政経塾では、塾主と呼ばれる。

松下幸之助塾主の思想哲学を学ぶ

「わが半生の記録 私の行き方考え方」（PHP刊）



「道をひらく」（PHP刊）

松下政経塾は、松下幸之助記念志財団により運営されています。
当財団は、自修自得・現地現場の研修を通じてリーダーを育成する「松下政経塾」と、
リーダーの国際的研究活動等を支援する「助成・顕彰プログラム」という2つのイニシアチブを展開し、
松下幸之助の描いた理想社会が力強く具現化されることを目指しています。

公益財団法人松下幸之助記念志財団　松下政経塾 概要

所在地	〒253-0033 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5番25号
設立日	昭和54(1979)年6月21日
開塾	昭和55(1980)年4月1日
目的	21世紀理想の日本を実現するための諸理念・方策の探求と、それを推進していく人材の育成
塾長	遠山 敬史
施設	土地／6353坪(2万平米) 建物／2000坪(6700平米)
塾生数	21人
研修年限	原則4年
卒塾生数	300人(男性258人／女性42人)

公益財団法人松下幸之助記念志財団　役員

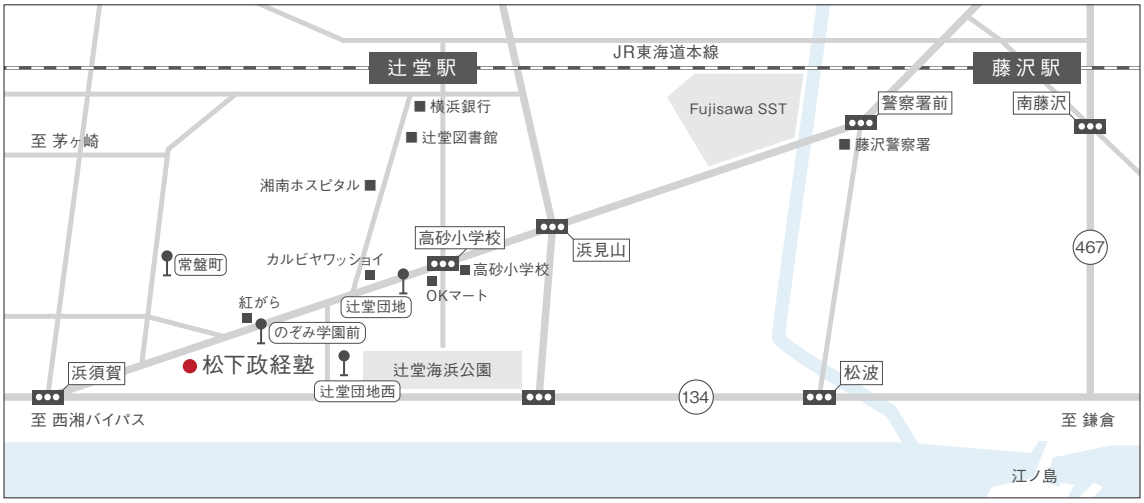
理事長 〈代表理事〉	松下 正幸	パナソニック ホールディングス株式会社　特別顧問
副理事長 〈代表理事〉	遠山 敬史	公益財団法人松下幸之助記念志財団　松下政経塾　塾長
専務理事	稗田 政秋	公益財団法人松下幸之助記念志財団　事務局長
理事	逢沢 一郎	衆議院議員
	井上 章一	国際日本文化研究センター　所長
	金子 一也	公益財団法人松下幸之助記念志財団　松下政経塾　顧問
	神藏 孝之	イマジニア株式会社　取締役会長 ファウンダー
	杉島 敬志	京都大学　名誉教授
	田中 耕司	京都大学　名誉教授
	戸部 博	京都府立植物園　園長／京都大学　名誉教授
	野田 佳彦	衆議院議員
	速水 洋子	京都大学　名誉教授
	渡辺 利夫	拓殖大学　顧問
監事	川上 徹也	パナソニック ホールディングス株式会社　客員
	中川 能亨	パナソニック ホールディングス株式会社　客員
評議員	伊藤 達也	衆議院議員
	猪木 武徳	大阪大学　名誉教授／国際日本文化研究センター　名誉教授
	金子 将史	株式会社PHP研究所　取締役常務執行役員／政策シンクタンクPHP総研　代表・研究主幹
	古賀 伸明	国際経済労働研究所　会長／公益財団法人連合総合生活開発研究所(連合総研)　顧問
	小林 節	慶應義塾大学　名誉教授兼弁護士
	近藤 大博	日本国際情報学会　会長
	佐伯 聡士	読売新聞東京本社　取締役調査研究本部長
	角 和夫	阪急阪神ホールディングス株式会社　代表取締役会長 グループCEO
	副島 顕子	熊本大学大学院　先端科学研究部　教授
	曽根 泰教	慶應義塾大学　名誉教授
	土谷 準明	公益財団法人松下幸之助記念志財団　松下政経塾　元副塾頭
	長榮 周作	パナソニック ホールディングス株式会社　特別顧問
	鳥居 かほり	株式会社矢島聰子事務所所属　女優
	奈良 俊幸	一般社団法人松下政経塾共創センター　所長
	西田 治文	中央大学　名誉教授
	平野 俊夫	公益財団法人大阪国際がん治療財団　理事長／大阪大学　名誉教授
	松沢 成文	参議院議員
	宮本 又郎	大阪大学　名誉教授

(敬称略　50音順　2024年4月1日現在)

アクセス

松下政経塾 住所

〒253-0033　神奈川県茅ヶ崎市汐見台5-25　TEL. 0467-85-5811



ＪＲ東海道本線　辻堂駅南口より

バス利用

〈辻堂駅南口バス停〉※乗車 約10分

・のりば1「平和学園循環」又は「茅ヶ崎駅南口行」乗車 →「のぞみ学園前」下車、徒歩3分
・のりば2「辻堂団地行」乗車 →「辻堂団地西」下車、徒歩4分
・のりば3「茅ヶ崎駅南口行」(浜竹・平和町経由)乗車 →「常盤町」下車、徒歩5分

ＪＲ東海道本線・小田急江ノ島線　藤沢駅北口より

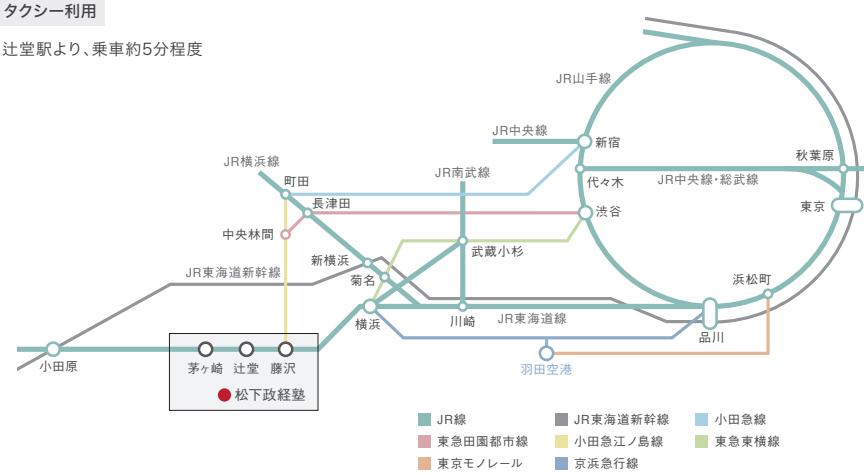
バス利用

〈藤沢駅北口バス停〉※乗車 約20分

・のりば2「辻堂団地行」乗車 →「辻堂団地」下車、徒歩5分

タクシー利用

辻堂駅より、乗車約5分程度



主要駅からのアクセス

東京駅 ― 辻堂駅〈電車で約55分〉
品川駅 ― 辻堂駅〈電車で約45分〉
新宿駅 ― 辻堂駅〈電車で約60分〉
新横浜駅 ― 辻堂駅〈電車で約45分〉
小田原駅 ― 辻堂駅〈電車で約30分〉

お問い合わせ

入塾に関するお問い合わせ	boshu@mskj.or.jp
一般事項に関するお問い合わせ	admin@mskj.or.jp

公益財団法人松下幸之助記念志財団

松下政経塾

〒253-0033 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5-25

TEL. 0467-85-5811
FAX. 0467-88-4398

www.mskj.or.jp

COPYRIGHT ©The Matsushita Institute of Government and Management ALL RIGHTS RESERVED